



## 『トクシマ・アンツアイガー』

### 第2巻

第21号

徳島 1916年2月13日

### 在外ドイツ人（3）

われわれは今や、論文の第二部で外国に住んでいる帝国ドイツ人、あるいはかつての帝国ドイツ人を取り扱う。われわれは外国の至る所で同国人に出会う、ただ一時的に故郷を離れて滞在しているにせよ、あるいは外国に引き続いて定住しているにせよ、同国の人びとに出会う。あらゆる国を特に考察しようとするれば、この論文の枠をはみ出してしまうので、比較的たくさんのドイツ人がいる国々だけを取り扱いたい。

ドイツ人の移住の理由はさまざまである。そして確かにはっきりしていることは、移住した農民は足を踏み入れた土地にほぼ新しい故郷を建設したのに対し、商人や技師そして官吏は、ほとんどが外国での滞在を一時的なもののみなしたに過ぎず、遅かれ早かれいずれにせよドイツへ帰国したということである。

ドイツの領域から移住した農民と小営業者の数は、ドイツ帝国の創設以降非常に減少したのに対し、たえず増大する貿易と拡大する一途のドイツの工業ゆえに、われわれはドイツの商人と技師にますます頻繁に外国で会う。

以前の論文で既に取り扱ったヨーロッパの領域以外では、ドイツ人の比較的多くの数がロシアとハンガリーに住んでいる。

ヨーロッパ・ロシアには、大戦以前にほぼ 15 万人の帝国ドイツ人とロシア国籍のドイツ人 200 万人が住んでいた。彼らは多かれ少なかれロシア帝国全土に分散しており、しかもドイツ人がまとまって集落を建設し共に生活している多くの地域がある。

最も古く、今日なお最も重要な入植地は、ロシア領バルト海のクールラント、リーフランド、そしてエストニアである。すでに 12 世紀には、この地域へたくさんのドイツ人が移住した。しかも、それは二つの異なる理由から行われた移住であった。ひとつは、ドイツ騎士と剣友騎士による原住民の改宗といった宗教的目的である。それに続いてドイツ商人が、とりわけハンザの時代にここに新たに生計を得る機会を捜した。レバール（現在のタリン）、リガ等はドイツ・ハンザ誕生のおかげでできた都市である。これに対し、騎士団の活動の対象はもっぱら平地であった。その教団の騎士に続いて、この新しい土地に若い同信徒が家族と共にしばしばやって来て、子孫が今日まで住んでいる地所のほとんどを所有した。バルト海地方のドイツ貴族は、ロシアにたくさんの有能な外交官、政治家、そして将軍を提供した。

しかし、ロシア政府を咎めることはできない感謝すべきことがここにもある。たとえば、驚くべきことなのだが、ロシア政府は数百年このかた全てのドイツ人に対しひどい仕打ちをしたので、バルト海地方のわれわれの同郷人は、ドイツ人のままで居続けたのである。

われわれはドイツ人の大移住を、しかも第一に農民の大移住を、さらにモソニエン（ヴォリン）、パドリエン（パドリア）、ベッサラビアに、そし

てドンとボルガの流域に見ることができる。彼らはロシア皇帝から勧められ、18世紀半ば以降この地方に文化をもたらす人として移住した。そして、今日でもなお、彼らの村々や農場は近隣のロシア人のそれと比べ際立って優れている。彼らが自己の任務を遂行した後、あらゆる手段を持って彼らをロシア人にしようと試みられたが、大きな犠牲を払ってどうにか彼らはドイツ人であり続けることができた。

戦争期間中、数え切れないほど多くのドイツ人が家屋敷から追い出された。今、ロシアでドイツ人の名前を持つことは、迫害を受けるに十分に思われる。こうしたロシアにいるドイツ人に対し、戦後再びドイツに居を定める機会が与えられるとのムードが、つまりそうしたことへの配慮がドイツの新聞にはすでに見受けられた。このことによって、ドイツ人社会に多くの人間が維持され、戦争がもたらした人数の損失を埋め合わせることができると思われる。

つづく

---

### 日本の神と神話（3）

阿弥陀、短く言うと弥陀は、光って神々しくなったものの化身である。その肖像は大抵掌を上にし、親指を互いに突き合わせながら両手を膝の上に置いた姿でそれと分かる。彼の額の上には丸い染み、つまり賢明さの印があり、蓮の形をした光輪を背にしている。

下層階級の大きな尊敬を集めているのが賓頭慮（びんつる）である。その立像はしばしば赤や黄色の帽子を被り、エプロンを掛け、手袋をしている。彼は元々は仏陀の16人の弟子の一人であったが、貞潔の誓いに背いた罪で共同体から放逐された。したがって、彼は大抵聖域の外に見うけられることができる。彼は全ての身体的疾患を治すことができると評判になっている。病人はまずその立像を撫で、次に患っている箇所と同じ立像

の箇所を病気が治るよう願って磨く。その結果、立像は次第に元の姿を失っている。

観音は慈悲の女神である。彼女は世の中を観察し、不幸な者の祈りに耳を傾ける。彼女はさまざまに表現されている。いくつもの頭を持つ姿として、頭が馬の姿として、千の腕を持つ姿として表現されている。いわゆる千手観音は実際は腕が40本しかなく、各腕はそれぞれ仏教の標章である蓮の花、法輪、太陽、月、仏塔等を持っている。膝の上で組み合わせられた手は、僧侶に対する施し物を受け取るための椀を持っている。

四つの天王、つまり持国天（東）、増長天（南）、広目天（西）、多聞天（北）は悪魔の攻撃から世界を護る。その寺院の保護者である仁王とは異なり、それらは武器を手に持ち、悪魔を足の下に踏みつけている。

つづく

-----

## 第5回演劇の夕べ

196年2月13日 徳島

ルートヴィヒ・アンツェングルーバー

『良心の呵責』

2幕から成る農民喜劇、歌有り。

登場人物

グリルホーファー

金持ちの農民

ドウステラー

彼の義兄弟

ヴァストル

ミフル

ローズル

グリルホーファーのところで働いている  
奉公人

ホーアラッヘリー家の人びと

レオンハルト

御者

ポルトナー

草木の生えていない斜面にいる農民

彼の妻

ナーツル

ハンス

}  
}

その息子たち

グリルホーファーの家で働いている下男

---

### ドラマの舞台

第一幕：1) グリルホーファーの傍の農家の居間

2) グリルホーファーの家の前

第二幕：1) 第一幕の2と同様

2) 草木のない斜面にいる農民の傍らで

第三幕：第一幕の1と同様

7時20分開始

上演時間2時間30分

---

ルートヴィヒ・アンツェングルーバーは1839年11月29日、ウイーンの食うや食わずの貧しい環境のなかで生まれた。彼の父は小役人で、自身詩を創作する素人愛好家であった。彼の母は、先祖が恐らくシュワーベンからオーストリアへやって来たウイーン市民の出身だった。父の早世によって孤児になったその少年は、早くから生活の重要さに気づいた。彼の旺盛な思索は、若き日のこの上なく辛い生活を乗り切るのに役立った。演劇への共感、遠く幼年時代に遡る。そして学校終了後、最初は店員として書店に勤務したが、かつての思いが彼をやがて再び舞台へと引き付けた。1859年に彼は俳優となり、小さな旅回りの一座と共にドイツとオーストリアをあちこち巡った。その際、彼の母は付き添い、家族的な寛ぎを与え

続けた。各地を巡った時代の彼は、詩を創作することが全くできなかった。彼は長い間雇用契約に恵まれなかったが、1869年にウイーン警察の官房書記に職を得た。今や詩人は書類の山のなかに座ることとなった。ドイツ演劇が衰退した時代に、その改革者になるはずの志の高い精神の持ち主が、ぱっとしない下級官吏だったとは誰も想像しないだろう。1870年11月初めに、ウイーンで初演された彼の作品『キルヒフェルトの司祭』は、思いがけなく彼の名前をドイツの諸国にあまねく広めた。その後数年間に、彼はもっと大掛かりな民族劇である重量感あふれる作品『偽りの宣誓をした農民』を著した。1878年の『第四の掟』は、それ以前の二つの作品と比べて品位がある作品であった。その間に彼は、ドイツ喜劇の傑作である『クロイツェルシュライバー』（1872年）、『良心の呵責』（1874年）、『二重の自殺』（1876年）、『乙女の毒』（1878年）を著した。ここには、彼の最も奥行きのある演劇的才能を見てとることができる。彼は戯曲に新しさを提供する一方、『汚点』（1876年）、『シュテルンシュタインホーフ』（1883/84年）の二つの小説では、伝統的な方法を凌駕することはなかった。それらはそれなりに大家の作品ではあるが、小さな作品（『村の散歩』、『神は失われた』、『知の力－心の痛み』、『孤独』、『思索家』等々）と同様、単なる性格描写に過ぎない。彼は生きている間に、正当かつ十分に認められることはなかった。批評家は称賛したが、大衆は彼を拒絶した。病気や様々な不満がその勇敢な男を容赦なく弱らせ、そして1889年12月10日、突然彼を襲った死が初めて国民の間に全般的な共感を呼び起こした。ドイツ全体が大きく深い悲しみに包まれたのである。帝国参議院は会議を中断し、そのことによって議員は葬儀に参加することができた。彼は孤独のまま世を去った。その時代の劇作家の巨人であると、国民によって認められたのはあまりにも遅過ぎたのだった。

-----

舞台でリハーサルをするので、公演（2時開始）前の午後、大広間から

立ち退くよう願います。プログラムの販売は前回までと同様です。

演劇部

---

## 礼 拝

嬉しいことに、今日われわれはツインマーマン宣教師にも、フンツィカー宣教師にもお目にかかれるだろう。お二人はここで、カトリックあるいは新教の礼拝を取り行うことになっている。新教の礼拝は9時に、カトリックの礼拝は10時に始まる。

---

## われわれの敵の予言

1年に一度、大晦日に時計が真夜中の12時を打った時、将来を展望することが許される。今度は時の経過に従いながら、一つの将来だけではなくて、「複数の」将来を探してみよう。大晦日の鉛占い<sup>1</sup>が将来を占った中で多かったのは、戦争についてであった。戦争がどのような結末を迎えるかについてまだ測り難いが、その結果を知りたいとの待ちきれない思いが大晦日の鉛占いとなったのである。このテーマについての予言、予想、数の解釈はたくさん言われているが、また奇妙なものも多い。残念なことに世界史は人間の精神よりもウイットに富んでいて、予言をただ事後的に黙認したがつているのである。それまでは、これからも和平の日付などの数多くの恥知らずな算定を聞くことになるだろう。そして誰も予知せず、予定もできなかったある日、突如平和の鐘が鳴り響くことになるだろう。待ち切れ

---

1 ドイツやオーストリアでは大晦日に、溶かした鉛を水に落とし、その形から未来を占う風習がある

ぬ思いのそうした戯れよりも遥かに有害なのが、協商国側の政治家たちが再三再四行っている予言である。もとより、これらの人びとに千里眼が備わっているわけではなく、ただ彼らは政治家としての先見の明、論理的予測に基づいていると見せかけたがっている。ツァー（ロシア皇帝）、アスキス、ポワンカレ、ビビアーニ、ロイド・ジョージ、チャーチル等の人物の地位に備わっている全ての責任によって、彼らは公的演壇から国民に語りかけ、戦争の終結を旗を振って、かつベンガル花火で繰り返し輝かしく賛美した。われわれもそのことを確認し、歴史叙述のために要約しなければならない。あろうことか、ニコライ・ニコラエヴィッチ大公は13週間前の敗北真っ只中の1914年11月18日に、ペテルスブルク新聞の代表者たちを呼び寄せ、こう語った。「二・三週間以内にロシア軍はベルリンにもウイーンにも進駐するとの信念を抱きながら、全てのロシア人は過ごしていた。私と私の参謀本部もそうした希望を抱いていることを否定しない。ただわれわれの予測によれば、敵の二つの首都に入る日はもっと先になる。」と。

それ以来、この日付は13ヵ月延期され、大公自身はもはや二つの首都への入城に関心を持たなかった。というのは、確実だったのは、ティフリスへの入城だけだったからである。にもかかわらず、彼と同郷のロシア外務大臣ササノフは怯むことなく新しい予言を行い、1915年8月2日に帝国議会で大声を張り上げてこう怒鳴った。「やがて新たなバルカン同盟が再興されるなら、ロシアの最も幸せな日が来よう」と。この予言者もからかわれた。新たなバルカン同盟が成立し、さらに発展しようとしているが、果たしてこれがロシアの最も幸せな日となったのか、また現在そうなのだろうか。他の予言者たちもそういう調子だったので、世界史は彼らの言うことを真に受けただけではなく、そのための「イラスト」もまた同じように提供したのである。





ロシアにおけるわが軍の前線（1915年12月末）及びツターの予言

「作戦行動はプシェミシルの占拠によって終了したと見なされることが出来る。敵の力は3月22日に打ち破られた。今、そのあとに続いて起こっているのは、スラヴ主義の凱進行進である。」（将校集会所での祝宴に際し、プルツェミスルで行われた1915年4月17日の演説から）

フランスにおけるわが軍の前線（1915年12月末）及びビビアーニの予言

「われわれは独立を再興し、アルザス・ロレーヌにいるフランスの家族を本国と結びつけつつある。」（1915年4月15日、クルーズ県の県議会での演説から）



ウィンストン・チャーチルは次のように述べた。「ハミルトンの軍隊とわれわれのダーダネルス艦隊は、この戦争が未だ経験したことのない勝利からほんの数マイルのところにいる。この勝利は間近に迫った強烈な事実なのであり、戦争の期間を相当短縮することになるであろう」

（1915年6月15日、ダンディーで開催された公の集会での演説から）

ウィンストン・チャーチルは次のように述べた。「連合国はアントワープを獲得し、そこを保持するであろう」

（1914年10月1日、アントワープで行った彼の式辞から。当時、彼は海

軍部隊のトップにいて、ベルギー国王、将官、その都市首脳部の歓迎を受けた。)

ビビアーニは次のように述べた。「ロシアはセルビアを支援するため、連合国側に加わった。近い将来、ロシア軍はそこでわれわれの側について戦うだろう」

(1915年10月112日、フランス下院での大演説のなかで)

ロイド・ジョージが予言したこと。「イギリスの貿易は、戦争中に大きく発展するであろう。外国でのイギリス工業製品への需要は、われわれが残業をして働かねばならなくなるほど増大するだろう」

(1914年10月9日、ロンドン商社代表団への挨拶から)

実際には

イギリスの輸出	1914年	マイナス 171,712,338 ポンド
〃	1915年	マイナス 約 285,000,000 ポンド
イギリス国債	1913年	73.60
〃	1915年	57.50

『ベルリン挿絵入り新聞』から

-----

## 収容所展望

今週、故郷からの郵便物がどっさり届いた。手紙や小包が相当量やって来た。嬉しいことに、「小包を受け取りに事務所まで」との声を聞き、すでに数週間前から予告されていた贈物を、われわれは今とうとう手に入れた。しかし、チェス盤やリンゴ、そして壊れて粉々になった菓子、チョコレート、葉巻が無造作にごた混ぜにされて手渡されたり、あるいは開けてみると全体的に中身が乱雑に揺すられていたり、振り動かされていたりしてい

るので、まさに複雑な思いである。ひょっとして救える物はなお救おうとするが、それだけいっそう失望が大きくなって事務所を後にする。

この国では未だに中国風の新年が祝われているが、そのことについてほとんど気付くことはなかった。二・三隻の帆掛け舟が祝日にこちらへやって来た。農夫たちが、買い物をするために町へ向かってのんびりと歩いて行った。われわれのところを通りかかった多くの人たちが、めったに見られない捕虜たちの活動を興味深そうに見ているのを観察することができた。とりわけ、カラフルな腰巻きを着た農民の妻たちは、色鮮やかに見える。彼女たちは汚さないようにするために、着物の裾をたくし上げていた。

日曜日に行くと予告された映画の上映は、あやうく中止になるところであった。というのは、またしても電灯がやっと時たま点灯する程だからである。だが幸運なことに、故障は上映の時間までに取り除かれることができた。週刊展望は私に競争相手の恐れをいだかせるものであった。何と言っても映画の前にもものが言えるのは良いことである。さもないならば、私は新奇なことを全てひっそらわれてしまっただろう。

しかし、われわれは冬がもつて損害を被っているように思われる。中津峰の頂は雪で被われ、遠くまで輝いて見える。寒くて風がある。そのため、収容所では風邪がかなり流行っている。しかし、梅<sup>2</sup>は冷たさによって惑わされることはない。木曜日の散歩の途中、大谷で豪華に咲き乱れている梅の花に出会い、われわれは感嘆の声をあげた。なるほど、それらの木の一本一本を見れば、いくらか失望せざるを得ないが、咲き乱れた三・四本の木々を一緒に見れば、故郷で見慣れたものとは違った趣がある。日本人は花をつけた一本一本の木で満足する。それは、日本人が一本の木を見て思わず詩を詠み、それを紙片に書き込むからである。まさに、梅の花は日本人によって特に高く評価されている。梅は画家にとって主要な題材であり、花の特徴を綿密に調べていく。ほとんどまだ冬だという時期に雪と寒さにすら反抗する梅の花は、抵抗力の点で戦士が模倣すべき手本である。ただ

---

2 梅を彼らは Pflaume (プラム) と呼んでいた

残念なことに、散歩は山の中まで行くことにならなかった。

浴場は長い間操業を休止していたが、再開した。ボイラー設備はいくつか新しいものに取り換えられ、ともあれ差し当たり調子よく作動している。ただ、それが長時間もつかどうかは疑わしい。

仕事場は今はずでに整備され、たくさん見物人がいるにもかかわらず、そのなかで勤勉に仕事が行われている。仕事場に行く毎に、元気の良い連中を目にできる。彼らは家畜小屋のなかでも快適に過ごしているように見える。彼らの前にそこにいた鶏たちは、そのなかで繁殖することはなかったのに。ヤコブというたくましい奴は時にはこちらへ、時にはあちらへぴょんぴょん跳びはね、敵味方なく靴を特に好んでつつき、そして靴紐をぐいぐい引く。このカラスはずでにいろんな事を習得しているが、それを披露するのは、垣根のむこうにとまって、自分を見る者が誰もいないときだけである。そうすると、自分の名前のヤコブをあらゆる口調で呼び、チャツという音を出したり、カアと鳴いたりするのである。それは聞いていて本当に楽しい。ステプケはヤコブに関わりたくなくて、ヤコブを大きく避けて通る。一方、おどけた様子をした縮れ毛のスピッツのフェリックスは、大喜びでヤコブと一緒に遊ぼうとする。だが、ヤコブはこの不器用な手出しに対してほとんど気に入らず、ゴミ溜まりまで移動していく。

今日はこれでよしとしよう。

-----

## チェス・コーナー

(駒の略語 K=キング、D=クイーン、L=ビショップ、  
S=ナイト、T=ルーク、B=ポーン)

### 第 85 問の解答

- 1.) Tg4 - f4 任意の手
- 2.) D, T, Sd2 - d4 詰み

### 第 86 問の解答

- 1.) Dh8 - f8 d6 x e5
- 2.) Lh7 - f5 任意の手
- 3.) Df8 - c5 詰み

### 第 86 問、その他の解答

- |                        |                          |
|------------------------|--------------------------|
| 1.) . . . . . Kd5 x e5 | 1.) . . . . . Lh2 x e5   |
| 2.) Df8 - e7 任意の手      | 2.) Df8 x f7+ K を任意に     |
| 3.) De7 - e4(x d6) 詰み  | 3.) Df7 - b7(c2 - c3) 詰み |

正解を送ってくれたのは、ヨーゼフ・ヴェーバーである。

### 第 87 問

白：Kd7, Dh1, Tc7, e1, Lc1, Sc3, f7, Bb3, b6, c2, e6, f3

黒：Kd4, Dh2, Ta5, Bb4, b5, e2, g3

2手詰め

### 第 88 問

白：Kf2, Dg8, Lh5, Sd7, Bc2, g4

黒：Kf4, Th4, Lh8, Bb6, e5, f6, h3, h6

3手詰め

-----

## 青島での苦難に満ちた日々から（3）

施徳呈、呉伝身、そして劉吉高は生きるときも死ぬときも神を信じて、私に味方する決心をした。彼らは動揺することのない類まれな人たちである。行くことが義務であるという明確な方針が示されない限り、私は留まりたい。無事でありたいとか、救われたいとの理由で、ただ住所を移すことは意味がない。

3日。夜通し雨をもたらす強い南風が吹いた。「カイゼリン・エリーザベト」が沈没した。その日に北風が吹き始めた。このところ色付いてきた葉が吹き飛ばされた。

西の丘にいた砲兵中隊が再び戦列に加わった。その兵士たちは、上海通りに避難場所を造り始めた。特に発電所を狙った相当に激しい砲撃のなかを、私はビスマルク兵営へ出かけた。砲兵中隊を戦列から離れさせるよう、文書ですでにお願いしていた総督に、再度個人的に請うためである。中隊の存在によって、われわれの病院とヘフト・ハウスにあるドイツ野戦病院は、危険に曝されるからであった。

少々苦勞したが、私は地階のセメントで造られた丸天井の部屋に走り込むことができた。地下全体は、電球の明かりでこうこうと照らし出されていた。私がそこにいる時、突然電灯の明かりが消えた。そうこうする内に、発電所が破壊されたのである。総督は真っ青になり、ひどく心配そうに見えた。彼は、あらゆる点でベストを尽くすことを望んだ。即刻、砲兵中隊の退去の命令が下ることとなった。神が彼のこのことを忘れませんように。確かに、彼の置かれた状況は楽なものではなかった。

午後、ゾイフェルトがもう一度やって来て、自分の体験について説明した。ものすごく烈しい砲撃に曝されたにもかかわらず、これほど負傷者が少なかったのは驚くべきことであった。町が砲撃された際も、同様であった。砲弾のなかに信じられないほどたくさんの不発弾が含まれていて、この上なく幸いであった。したがって、それ程破壊されなかった。青島の全

住民のうち、誰一人として命を落とした者がいなかった理由はそこにある。われわれの地所だけでも、破裂しなかったたくさんの榴弾が見うけられる。われわれの建物を徹底的に破壊する程の不発弾が見うけられる。家の真後ろに15センチ榴弾が落ち、図書館の傍らに落ちた別の榴弾は、ずっと後になってようやく発見された。また、今もなお庭塀に突き刺さっている榴弾がある。そして、まだかなりたくさんの別の榴弾も見つけられている。生徒たちの新しい住居の壁を榴弾が貫通し、ベッドにいた赤十字社の看護士の辮髪を切り裂いて再び戸を突き抜けた。ただし、それ以上の損害を出すことはなかった。

台東鎮からは、放棄された家々が略奪に会ったことが報告された。

4日。北から嵐吹く。朝食に、私は一つの卵があるのを見つけた。それは、昨日鶏が産んだ卵で—完全に包囲されている間の唯一のものであった。

カトリック教会堂に大きな損害が生じた。4人のシスターが—幸いにも重傷ではなかったが—負傷した。

病院に榴弾が打ち込まれたとの報告を、私は市街地に行って帰る際に受けた。榴弾は年老いた王<sup>ワン</sup>がいる一角の低いバラックの壁に当たってそこを突き抜け、もう一方の端にある壁にぶち当たった。そして、2人の患者の間の地面に落ちたが、破裂しなかった。それにもかかわらず、当然のことながら患者たちは恐怖におののき、ちりぢりに逃げ去った。したがって、後で彼らを地所中探して集めなければならなかった。このことは、病院を引き払えとの合図であるように私には思えた。同じ夜、われわれは鴻椿龍会社のある大鮑島へ引っ越した。患者を受け取りに行くために車が出発する一方、藁縄をつくるための大きな倉庫が片付けられ、患者を受け入れるためのマットが地面に広げられた。私は下の方で患者を受け取り、彼らを順番通りしかるべき場所に寝かせ、飲み物を与えた。全てが完了した後、なお一夜をわれわれの家で過ごすため、私は再び上の方へ行った。赤十字社の人たちは、全員が大鮑島へ引っ越した。

奇妙な夜だった。激しい砲撃がわれわれのいる周辺に行われた。その際

に、砲の口径がどれくらいかはっきり区別することができた。さらに、弾の音がピューピューと鳴る音から判断して、砲撃が比較的近くで、あるいはかなり遠くで行われているかどうか識別することができた。特に目立っていたのが、大口徑の曲射砲だった。その音は、ルターが悪魔について、「低いけれども金切り声で朗読する」と言ったことを思い起こさせた。とうとう、榴散弾のガラガラという音に、われわれはもはや注意を払わなくなっていた。われわれの家の南西の方向にあるカップラー・レンガ製造工場の近くの地所が、文字通り鋤き返された。

病院ごと一緒に引っ越したのが、いかに適切であったかが明らかになった。というのは、引っ越しが終わるか終わらないうちに、大部分の患者がいた真ん中のバラックがほぼ完全に破壊されたからである。本当に恐ろしいことになっていただろう。

夕方、日本軍は海泊給水施設を占領した。その際、24人が日本軍の捕虜になった。

夜通し私はこう認めることができた。榴弾が近くに落ちると、私は何ら不安を感じることはないのに、純粹に肉体的な心臓疾患が出てくるのを夜通し観察することができた。翌朝、部屋はバラバラに壊れた。晴れた涼しい朝が近づいて来た。

5日。病院が完全に大鮑島に引っ越した後、いつでもすぐに何かが出来るように私もまた引っ越さなければならない。

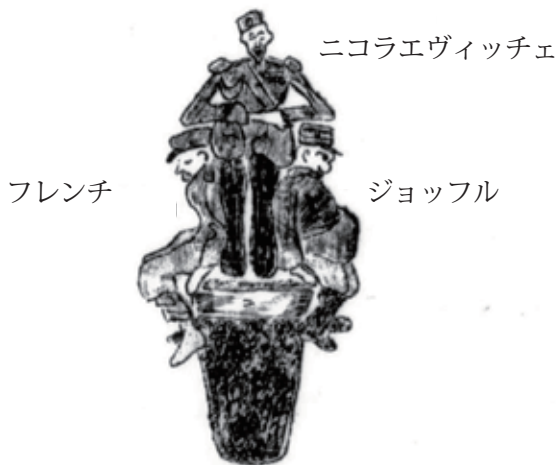




シュピーゲル (鏡)

『トクシマ・アンツァイ  
ガー』第2巻第21号  
(1916年2月13日)  
ユーモア付録

最新のワイン・コルク



ワイン・コルクの上に乗る疲労した戦略家



## 変化!

豚どもはそこに向かい、  
彼らの最期が近づく。  
もう再び聞くことはない  
彼らのキーキー鳴く声を  
力のこもった一撃は  
心臓を刺し  
そして、彼ら全てが  
死んだ。

今、彼らは吊るされ

皮を剥がれた、ごしごし洗われ、茹でられ  
ピッタリ二等分される

そして、待ちこがれてその日待つ

スープのなかへきれいに切り落とされる日を。

空き家になっている住まいがあるが、しかし長くはない  
そこでは、たくさんの勤勉な働き手が働き、  
やがて金床の上ではハンマーの響く音がする

邪魔になるものは運び出され  
新たな息吹がホールに引き入れられる  
朝早くから夜遅くまで弛みない創造の音が  
鑪掛けの音が、トントン打つ音が、鋸接の音が聞こえる  
指揮を執る親方の声が聞こえる！  
古いものは灰塵となって落ち  
そして今やそこに建ったのは  
君たちが今目にしている仕事場。  
「やがて、その作品は親方を賞賛することになるろう。」



子どもの

お喋り



小さなフランス人！

A. ああ、いつか僕もパパのようになれたらなあ！パパは十分なお世話をしてもらっているんだ。

B. そうなの！いったい君のパパはどんなお世話をしてもらっているの？

A. ドイツで戦争捕虜になっているのさ！

頑固者！

ハイニ：リヒャルト、なぜ君はクリスマスに貰ったビー玉で遊ばないの？

リヒャルト：冗談じゃない。50個僕は貰ったけれど、6個が下水に落ちてしまったので、今は自分の意志を押し通し、もう遊ばないのさ！